

## <今日の説教のポイント ヨナ書2章>

ピノキオの話と似ている？ しかし、その内容の深さは段違い。

### 1 (1a) 神に逆らったら罰せられるというだけの話ではなかった。

一章ではヨナが海の中に放り出されて終わりました。神様に従わなかったヨナに神様が死という罰を与えられたなど誰もが思います。しかしこの一節で全てが変わります。神様がヨナを助けられたからです。神様は何を考えておられるのでしょうか？ これが二章で考えなければならない一番大事な問いかけです。

### 2 (1b-2) 三日三晩、ヨナは魚の腹の中で何をしていた？

ヨナは海に放り込まれて死ぬと思っていたでしょう。ところがそうではなかったのです。巨大な魚に飲み込まれて生かされたということは、神様の救い(赦し)は私たち人間にとってはあり得ないと思える出来事、しかし、主なる神様はそれを為し給う神様なのだということを示しているのです。「三日三晩」は、ヨナがこのことを知るに至るまでに過ごした意味ある経過時間として考えるべきでしょう。その結果、ヨナは主に向かって祈ることができるようになったのです(船底に降りて寝込んでいた時は祈っていない、祈れない。1:6に注目)。

### 3 (3-10) 主なる神様に立ち帰ることができた喜びを讃美するヨナ。

ヨナは何を喜んだのでしょうか？ 九死に一生を得たこと？ そうですね。でも、それだけではないと思います。逃げ出した自分を見捨てず、裁いて終わりでもなく、ここまでして自分に臨み、ご自分の下に立ち帰らせようとされ、「私と共に生きなさい」と呼び掛けて下さっているのだということに気づかされ、喜んだのでしょうか。「救いは、主にこそある」(10)という最後の言葉がそれをよく表しています。私たちが「生きる」と言う時、それはこの神様のことを覚えながら生きる時に、まさに造り主なる神様がそのために与えて下さった人生を生きていると言えるのです。

### 4 このヤハウエ(主)なる神がイエス様を送って下さった！

イエス様誕生の時、天使は「その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」(マタイ 1:21)と言いました。巨大な魚でヨナを救った神様の「あり得ない話」は、私たち全ての者を救って下さるこの御子の出来事で実際に神様は起こされたのです。